

「公」

2016年5月21日(土)

リリオ 品川

参加：15名

司会・文責：野田

1. 概要：

- ・初参加者を五人迎え、公とは何か、個人同士の関係性や、個人と組織などの集団との関係性から考察しました。

2. 公（おおやけ）とは何か：

- ・広報するなど、不特定多数に対して情報を開示することである。
- ・公と世間は共に複数の人間の間を生じる関係性であって、似ているように見える。両者の微妙な違いを明らかにして行って、公が何かを考えたい。
- ・二人の間に人間関係が生じた時、お互いに対してこういったことをするだろう、或はしないだろうといった期待が生じ、また相手が自分にこういった期待を抱いているだろうという予想があり、それらに従って行動する、ルールのようなものが出来上がる。そのとき、私（わたくし）ではない公（おおやけ）の一面が自分の中に生じ、その一面を相手に向けて示す、態度が公である。従って世間との違いはない。
- ・公という言葉には、守らなければならないという義務感が付きまとうが、なぜそうなのかが分からない。
- ・公は世間よりも大きい。家族や、家の近所などの親密な少数の人間でも世間である。その場にはいない第三者や不特定多数のことを想定すると公になる。こちら側の目が届かない範囲の他者の目を気にして、自分に課す、明文化されていないルールのようなもの。
- ・私（わたくし）は自分の内側から来るが、公は外から、上から来る。
- ・公の視点では、自分というものを消して、～としての（例：組織の代表としての）役割を果たすよう、三人称で見る。公人としての立場や、会社組織の長が示す公的見解などである。
- ・行政など国の機関が絡む方が、より公である。

3. まとめ：

- ・公人、公の場、世間との比較、公共との比較など、言葉を起点に考えた方と、公という言葉が自分にとってどのような意味であるかから考えた方がいました。
- ・私と他者との関係性として公を考えた方と、そもそも私という立場を消去して、想定上の第三者的立場であるとして公を考えた方がいました。

以上